

第69期

報 告 書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

名糖産業株式会社

目 次

株主の皆様へ	1
連結業績の推移	5
連結財務諸表	
連結貸借対照表	6
連結損益計算書	7
連結株主資本等変動計算書	8
連結キャッシュ・フロー計算書	8
個別業績の推移	9
個別財務諸表	
個別財務諸表（要約）	10
個別株主資本等変動計算書	11
会社の概要	12
株式の状況	12
役員	12

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申しあげます。

本年3月の東日本大震災で被災されました皆様には、心からお見舞い申しあげますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申しあげます。

さて、当社第69期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の営業の概況につきましてご報告申しあげます。

<企業集団の事業の経過およびその成果>

当連結会計年度におけるわが国経済は、内需振興に向けた各種の景気対策の効果に加え、アジアを中心とする堅調な新興国需要や米国経済の回復基調の影響も受けて、リーマンショック以降の景気の落ち込みから、ようやく改善の動きが見られるようになりました。しかし、本年3月11日に発生しました東日本大震災と巨大津波による被害、それに伴う東京電力・福島第一原子力発電所の事故によって、未曾有の深刻な事態に陥りました。甚大な被災と電力供給量の低下による影響、消費意欲の減退、原発事故に伴う放射能汚染による出荷制限や風評被害、およびエネルギーコストや原材料価格の高騰などにより、景気の下振れが懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、安全・安心で高品質な商品の提供への取り組みが強く求められる一方で、消費者の買い控えや長引くデフレなど、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上のため品質管理体制の強化に引き続き注力するとともに、お客様のニーズにお応えできる付加価値の高い商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を進めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前連結会計年度に比べ2.3%減（下記のチョコレート商品の取引価格変更分を考慮すると0.3%増）の22,088百万円となりました。（食品事業において、昨年9月よりファミリータイプのチョコレート商品の取引価格を変更しております。そのため売上高および販売促進費が前期の基準で計算した場合よりも減少しております。）営業利益につきましては、生産性の向上やコストの削減を図りましたが、原材料価格の上昇および新たに稼動しました3工場の減価償却費の増加などにより、前連結会計年度に比べ56.4%減の564百万円となりました。また、経常利益は前連結会計年度に比べ38.3%減の1,096百万円となり、当期純利益につきましては、特別利益に投資有価証券売却益277百万円など、特別損失に投資有価証券評価損249百万円などを計上しました結果、前連結会計年度に比べ42.3%減の708百万円となりました。

<企業集団の事業分野別動向>

食品事業

当連結会計年度におきましては、主力の菓子部門は既存ブランドに加え、新たなファミリータイプの商品やお手頃なサイズと価格の新商品などを投入して、営業施策を積極的に展開しましたものの、消費者の節約志向により低価格競争が激化するなか記録的な猛暑や厳しい残暑の影響も受け、減収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」は堅調でありましたが、「ベストアソートチョコレート」「北海道生クリームチョコレート」などファミリータイプの商品の売上が低下し減収となりました。「ぷくぷくたい」をはじめとするエアインチョコレートの売上も減少しました。キャンディ類は、小袋商品など自社商品の売上は減少しましたが、受託商品が伸長し増収となりました。

粉末飲料部門は、ラインアップされた基幹商品に加え、特定保健用食品（トクホ）の新商品や既存ブランドの増量商品などを投入して拡販に取り組みました結果、主力の「レモンティー」や「レモネードC」などの売上が伸びたほか、分包タイプの「しょうが紅茶」も好調に推移し、増収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、夏場の気候の後押しを受けるなか新商品や受託商品の売上も堅調に推移し、増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースベーカーは、愛知県小牧市の新工場の稼動とともに、市場のニーズに対応した新商品開発や販売促進活動を積極的に推進した結果、主力のバウムクーヘン類やゼリー類の売上が好調に推移して、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前連結会計年度に比べ1.8%減（チョコレート商品の取引価格変更分を考慮すると1.2%増）の19,562百万円となりました。営業利益につきましては、原材料価格が再び上昇に転ずるものが増えたことや新工場の稼動に伴う減価償却費の増加により、前連結会計年度に比べ29.5%減の1,156百万円となりました。

化成事業

酵素部門につきましては、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上は精力的な営業活動の展開により海外市場のシェアが拡大して増加しましたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は販売競争の激化により売上が低下し、減収となりました。ともに海外を主な市場としており、急激に進んだ円高の影響を大きく受けました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料の「デキストラン」の売上は減少しましたが、前連結会計年度に売上が無かったMRI

(磁気共鳴画像) 診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬である「フェルカルボトラン」(当連結会計年度より従来の「デキストラン・マグネタイト」の呼称を変更しております。)の売上が回復し、また「デキストラン」の誘導体の売上也伸びて増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前連結会計年度に比べ7.0%減の2,114百万円となり、東京都八王子市と愛知県小牧市に建設した新工場の稼働に伴う減価償却費の増加や円高の影響も受けて100百万円の営業損失となりました。前連結会計年度は123百万円の営業利益でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、売上高は前連結会計年度に比べ0.2%増の411百万円となり、営業利益は小売業向け店舗の賃貸収入の増加などにより前連結会計年度に比べ7.3%増の205百万円となりました。

<企業集団の設備投資および資金調達の状況>

当連結会計年度の設備投資総額は3,460百万円で、主なものは当社および株式会社エースペーカー(連結子会社)の小牧工場の建設などでありました。これらに必要な資金は、自己資金および金融機関からの借入金により調達いたしました。

<企業集団の対処すべき課題>

当社グループを取り巻く環境は、東日本大震災による影響が、生産や輸出、消費など幅広くおよんでおり、先行きは大変厳しい状況が続くものと懸念されます。また、消費者の健康および安全性志向がさらに広がるなかで、食品の品質管理や安全性への取り組みも一層強く求められております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様に喜ばれ満足いただける安全・安心で高品質な商品を提供するとともに、企業の永続的な発展を図ることを最大の課題としつつ、各事業分野にわたり強靱な企業体質の確立と収益力の向上に努めることにより、企業価値のさらなる増大を目指します。具体的な取り組み課題は以下のとおりであります。

* 食品事業につきましては、消費マインドの低下、店頭価格の下落という厳しい環境のなか、お客様の要望を的確に捉えた魅力ある商品を提供すべく、ブランド力ならびにマーケティング力および商品開発力をさらに強化していくとともに、品質管理体制の継続的な拡充を図ってまいります。これらにより、お客様に支持される高付加価値商品の開発に注力するとともに、多様化した価値観やニーズにお応えできる商品づくりを積極的に推進してまいります。同時に「アルファベットチョコレート」や粉末飲料の「レモンティー」、また連結子会社である株式会社エースペーカーの「厚切りバウムクーヘン」などの既存中核ブランドのさらなる

強化はもとより、グループ各社の連携を一段と強めてシナジー効果を最大限に発揮して、食品事業の拡大と業績の向上を目指してまいります。また、昨年の株式会社エースベーカーの新工場稼働による生産性の向上、生産能力の増強に加え、販売シェアの拡大を推進して収益力のさらなる向上に努めてまいります。さらに、原材料や商品の安全性はもとより、品質管理や製造の体制を一層強化するなどの対策を講じ、お客様に安心してお買い上げいただける高品質な商品をお届けできるよう注力してまいります。

* 化成食品事業につきましては、酵素部門ではチーズ用凝乳酵素「レンネット」の第2世代品「MRS」を軸として、さらに優れた性質を持つ次世代レンネットを加えて、海外各国に向けさらなる拡売を目指してまいります。また、昨年の2つの新工場稼働による生産の効率化、生産能力の増強をベースに、積極的な営業活動を展開して販売シェアを拡大し、収益力の一層の強化を図ってまいります。同時に、脂肪分解酵素「リパーゼ」や食品リン脂質製造用酵素「ホスホリパーゼ」の多方面への用途開発と販売拡充にも注力してまいります。その他の部門では、MRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾピスト』の原薬である「フェルカルボトラン」の技術を活かした新たな医療分野への用途拡大や、医薬品などの原料の「デキストラン」から合成したデキストラン誘導体による化粧品素材や臨床検査用試薬などの新規用途開発も着実に推進してまいります。さらに、「ヘルシーフレンド」の次世代品の用途拡充と販売促進にも引き続き取り組んでまいります。また、環境への配慮と合わせ生産性の向上を目指した設備の更新ならびにコストダウンの徹底などを積極的に推し進め、市場競争力を高めてさらなる事業の拡大に努めてまいります。

今後とも時代の変化に対応し、お客様に信頼され社会に貢献できる企業として継続的に発展するよう、全社を挙げて努力する所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

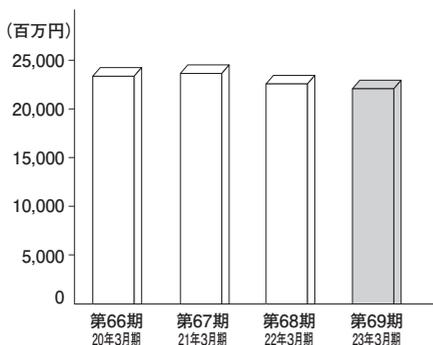
代表取締役社長 水谷彰宏

連結業績の推移

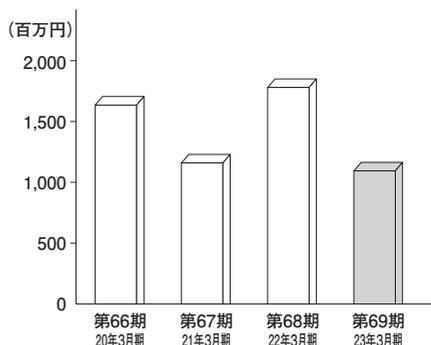
区 分	第 66 期 (平成20年3月期)	第 67 期 (平成21年3月期)	第 68 期 (平成22年3月期)	第69期(当期) (平成23年3月期)
連結売上高(百万円)	23,404	23,683	22,605	22,088
連結経常利益(百万円)	1,635	1,160	1,777	1,096
連結当期純利益(百万円)	935	809	1,226	708
連結ベースの1株当たり当期純利益(円)	51.41	45.81	72.95	42.13
連結総資産(百万円)	49,733	42,336	46,619	44,230
連結純資産(百万円)	36,822	30,355	32,326	30,744

(注) 連結子会社3社
株式会社エースペーカー、名糖乳業株式会社、プリンスゴルフ株式会社
持分法適用会社1社
名糖アダムス株式会社

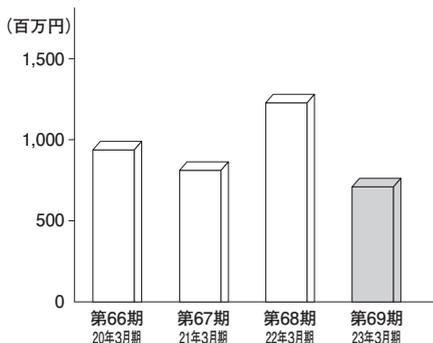
連結売上高



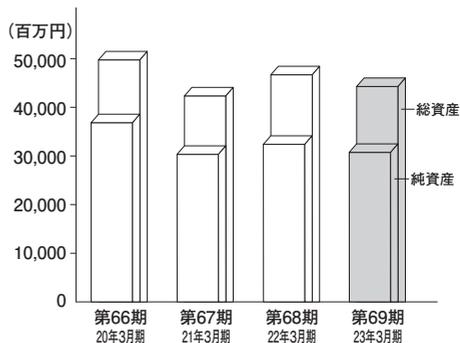
連結経常利益



連結当期純利益



連結総資産／連結純資産



連結財務諸表

連結貸借対照表 (平成23年 3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,834	流動負債	5,479
現金及び預金	1,864	支払手形及び買掛金	2,066
受取手形及び売掛金	4,528	短期借入金	610
有価証券	298	1年内返済予定の長期借入金	826
商品及び製品	765	未払金	177
仕掛品	273	未払費用	1,529
原材料及び貯蔵品	609	未払法人税等	114
繰延税金資産	209	返品調整引当金	9
その他	294	その他	146
貸倒引当金	△9	固定負債	8,006
固定資産	35,395	長期借入金	3,707
有形固定資産	14,291	繰延税金負債	1,686
建物及び構築物	5,863	退職給付引当金	2,118
機械装置及び運搬具	5,227	役員退職慰労引当金	15
工具器具及び備品	88	その他	479
土地	3,108	負債合計	13,485
建設仮勘定	3	(純資産の部)	
無形固定資産	101	株主資本	26,764
投資その他の資産	21,002	資本金	1,313
投資有価証券	20,262	資本剰余金	76
長期貸付金	48	利益剰余金	33,909
繰延税金資産	91	自己株式	△8,534
その他	668	その他の包括利益累計額	3,886
貸倒引当金	△68	その他有価証券評価差額金	3,886
資産合計	44,230	新株予約権	94
		純資産合計	30,744
		負債・純資産合計	44,230

連結損益計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		22,088
売 上 原 価		14,759
売 上 総 利 益		7,328
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		6,763
営 業 利 益		564
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	497	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	12	
そ の 他	133	644
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	41	
そ の 他	71	112
経 常 利 益		1,096
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 売 却 益	277	
投 資 有 価 証 券 償 還 益	40	317
特 別 損 失		
投 資 有 価 証 券 評 価 損	249	
固 定 資 産 除 売 却 損	69	
資 産 除 去 債 務 会 計 基 準 の 適 用 に 伴 う 影 響 額	21	339
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		1,073
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	450	
法 人 税 等 還 付 税 額	△71	
法 人 税 等 調 整 額	△13	365
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益		708
当 期 純 利 益		708

(注) 1株当たり当期純利益

42円13銭

連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
平成22年3月31日残高	1,313	76	33,537	△8,533	26,393	5,895	5,895	37	32,326
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△336		△336		—		△336
当期純利益			708		708		—		708
自己株式の取得				△1	△1		—		△1
自己株式の処分			△0	0	0		—		0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—	△2,008	△2,008	56	△1,952
連結会計年度中の変動額合計	—	—	371	△1	370	△2,008	△2,008	56	△1,581
平成23年3月31日残高	1,313	76	33,909	△8,534	26,764	3,886	3,886	94	30,744

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

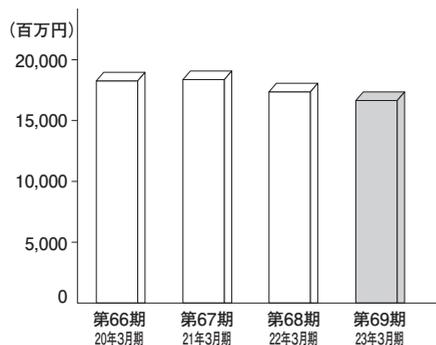
(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,238
財務活動によるキャッシュ・フロー	682
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	173
現金及び現金同等物の期首残高	1,657
現金及び現金同等物の期末残高	1,831

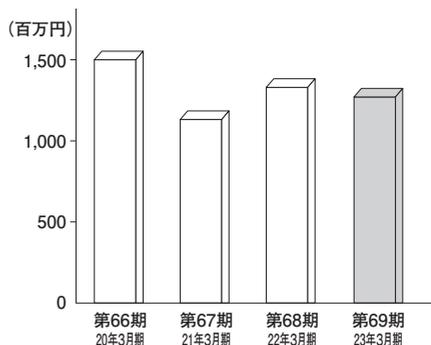
個別業績の推移

区 分	第 66 期 (平成20年 3 月期)	第 67 期 (平成21年 3 月期)	第 68 期 (平成22年 3 月期)	第69期(当期) (平成23年 3 月期)
売 上 高 (百万円)	18,227	18,332	17,327	16,613
経 常 利 益 (百万円)	1,498	1,130	1,328	1,271
当期純利益 (百万円)	890	841	936	903
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	48.93	47.60	55.70	53.72
総 資 産 (百万円)	47,784	40,353	44,263	40,184
純 資 産 (百万円)	35,901	29,480	31,177	29,768

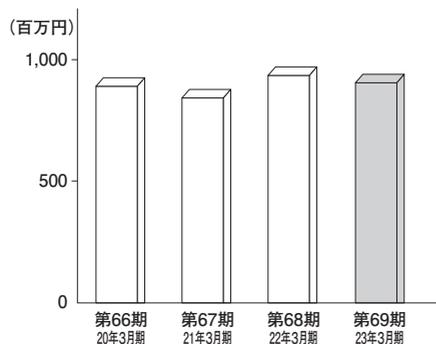
売上高



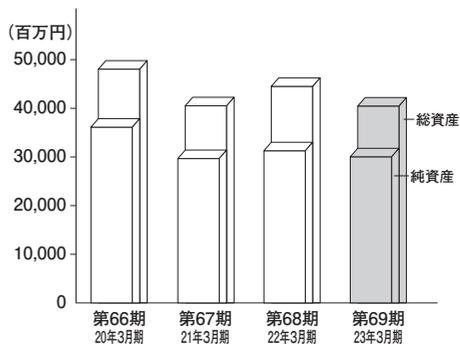
経常利益



当期純利益



総資産／純資産



個別財務諸表（要約）

個別貸借対照表

（平成23年3月31日現在）（単位：百万円）

科 目	金 額
（資産の部）	
流動資産	7,239
固定資産	32,945
有形固定資産	11,933
無形固定資産	69
投資その他の資産	20,942
資産合計	40,184
（負債の部）	
流動負債	4,242
固定負債	6,173
負債合計	10,415
（純資産の部）	
株主資本	25,785
資本金	1,313
資本剰余金	76
利益剰余金	32,931
自己株式	△8,534
評価・換算差額等	3,888
新株予約権	94
純資産合計	29,768
負債・純資産合計	40,184

個別損益計算書

（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）（単位：百万円）

科 目	金 額
売上高	16,613
売上原価	10,374
売上総利益	6,238
販売費及び一般管理費	5,514
営業利益	724
営業外収益	648
営業外費用	100
経常利益	1,271
特別利益	317
特別損失	214
税引前当期純利益	1,375
法人税、住民税及び事業税	446
法人税等調整額	25
当期純利益	903

（注）1株当たり当期純利益 53円72銭

個別株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算等 差 額	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成22年3月31日残高	1,313	76	32,364	△8,533	25,220	5,918	37	31,177
事業年度中の変動額								
剰余金の配当			△336		△336			△336
当期純利益			903		903			903
自己株式の取得				△1	△1			△1
自己株式の処分			△0	0	0			0
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)					—	△2,030	56	△1,973
事業年度中の変動額合計	—	—	566	△1	565	△2,030	56	△1,408
平成23年3月31日残高	1,313	76	32,931	△8,534	25,785	3,888	94	29,768

会社の概要（平成23年3月31日現在）

社名	名糖産業株式会社
本社所在地	名古屋市西区笹塚町二丁目41番地
設立	昭和20年2月
資本金	13億1,325万円
事業内容	食品・化成品の製造販売および不動産賃貸
従業員数	365名
主な事業所	支店 東京・名古屋・大阪・福岡 工場 名古屋・枇杷島・小牧・八王子・福岡
子会社	株式会社エースペーカリー（愛知県小牧市） 名糖乳業株式会社（福岡県飯塚市） プリンスゴルフ株式会社（福岡県宮若市）

株式の状況（平成23年3月31日現在）

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	21,265,000株
株主数	7,609名

役員（平成23年3月31日現在）

代表取締役社長	水谷彰宏
専務取締役	水野修
常務取締役	酒井功
取締役	小島寛志
取締役	市川秀夫
取締役	加藤重昭
取締役	齋田峰夫
常勤監査役	吉野俊彦
監査役	太田賢一
監査役	寺澤弘

- (注) 1. 取締役齋田峰夫氏は、社外取締役であります。
2. 監査役太田賢一氏および寺澤弘氏は、社外監査役であります。

幅広い年代にご支持頂ける 豊富なラインアップ!



アルファベットチョコレート



おいしさ
こだわり

自社工場でカカオ豆から一貫生産。
独特のカカオのコクと薫りを持ち味
とした本格派のチョコレートです。

株式会社 エスベーカー



レモンティー

香り高い紅茶にレモンを加えた本格派。
1杯でレモン2個分のビタミンC。



厚切りバウムクーヘン

丹念に焼き上げたバウムクーヘンを、食べ易い大きさにカットいたしました。開けてすぐ取り分けられる、便利な個包装タイプです。

株 主 メ モ

事業年度 定時株主総会 公告の方法

毎年4月1日から翌年3月31日まで

6月中

電子公告により行います。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告のホームページアドレス <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場証券取引所 株主名簿管理人

名古屋・東京

東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

(お知らせ)

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出下さい。

2. 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

3. 配当金計算書について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

■株主様ご優待

毎年9月末(中間期末)現在100株以上ご所有の株主様へ当社商品または当社グループ会社商品を年1回12月上旬に贈呈させていただきます。

- | | | | | |
|-----------|----------|-------|------|------------|
| ●100株以上 | 1,000株未満 | …………… | 小売価格 | 1,500円相当商品 |
| ●1,000株以上 | 5,000株未満 | …………… | 小売価格 | 3,000円相当商品 |
| ●5,000株以上 | …………… | …………… | 小売価格 | 5,000円相当商品 |

meito

名糖産業のホームページをご覧ください。

<http://www.meito-sangyo.co.jp>

環境に配慮し、植物油インキ
を使用しています。

